



砺波総合病院から

病院のホームページもご覧ください。

市立砺波総合病院 ☎32-3320

脊椎・脊髄病センターについて

脊椎・脊髄病センター長 高木 泰孝

はじめに

平成29年4月1日から市立砺波総合病院に「脊椎・脊髄病センター」を開設いたしました。

北陸の大学附属病院では専門外来として脊椎外科があります。市中病院にはそのような専門外来が少ないのが現状です。

当脊椎・脊髄病センターでは、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医である高木泰孝、林寛之が、毎週金曜日の午後に専門外来として完全予約制で診察を担当しています。高木泰孝は日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医（2種・後方手術）でもあります。当センターでは、隔週で担当医が変わります。来院時にはかかりつけ医等の紹介状（診療情報提供書）をお持ちください。

診察する主な病気

当センターの対象疾患は、腰

椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎圧迫骨折、頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎後縦靱帯骨化症、胸髄症、脊髄腫瘍、転移性脊椎腫瘍、側弯症、痙縮をきたす脳脊髄疾患など脊椎脊髄病疾患全般となります。

当院における脊椎手術と痙縮治療・慢性疼痛治療

当センターでは手術用機器として、脊椎専用の手術用顕微鏡1台、脊椎内視鏡手術システム（MED）2式、脊椎内視鏡手術システム（PED）1式、脊椎顕微鏡手術システム（MD）1式、術中脊髄神経刺激装置1台を保有しています。

・腰椎椎間板ヘルニアに対しては顕微鏡下椎間板摘出術（Casper法）、内視鏡下椎間板摘出術（MED法）、顕微鏡下椎間板摘出術（MD法）、局所

麻酔での内視鏡下椎間板摘出術（PED法）を行っています。

・2006（平成18）年より脳脊髄疾患による重度痙縮性麻痺（筋肉の異常なつっぱり）に対する治療法である髄腔内バクロフェン投与（ITB）療法を行っています。本療法は、腹部皮下に植込んだポンプ内に薬液を保持させ、カテーテルを通じて髄腔内に持続投与するもので、それにより痙縮が緩和されます。

・2012（平成24）年より上下肢の痙縮に対してボトックス療法を新たに行っています。ボトックスは神経伝達物質「アセチルコリン」の伝わりを弱める働きがあり、筋肉が緊張している部分にボトックスを注入すると筋肉がリラックスした状態になります。

・2017（平成29）年より腰椎変性すべり症、側弯症、後弯症に対する低侵襲の腰椎固定術であるX-LEF（側方進入椎体間固定術）を行っています。

・2017（平成29）年より慢性疼痛治療のひとつで、脊髄に微弱な電気を流すことにより痛みを和らげる脊髄刺激療法を行っています。脊髄刺激療法は、神

経の異常による痛みや血流障害による痛みなど、慢性難治性疼痛に効果があるといわれています。

最後に

当センターでは身体への負担が少ない低侵襲手術を導入しており、疾患の程度にもよりますが通常の手術より短期の入院期間で治療が受けられるようになっています。

市民の皆さんが、脊椎・脊髄病の様々な症状で当センターの受診を希望されるときは、かかりつけ医にご相談のうえ、予約を入れて受診ください。



当センターのスタッフ
左から 今井さおり、高木泰孝、林寛之